

国語科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・「書くこと」について、段落や文章構成を意識して書くことができている。また、課題に応じて粘り強く書こうとする姿もあらわれている。

(2) 課題

- ・問題で問われていることを正しく理解して読むことに課題が残る。物語文・説明文それぞれの読み取りを深めていく必要がある。
- ・既習事項を十分に活かしていない。活かすための力が十分に定着していないことが考えられるので、復習や反復練習など意識的に取り組ませることが必要である。

2 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
知識・技能	平仮名（清音）の読み書きは定着してきた。しかし、文章にする際の、長音・拗音・促音・撥音の書きに関しては課題が残る。	学年相当の長さの文章を書くことはできる。順序に沿って簡単な構成を考えることや、正しい表記で書くことに課題がある。	既習漢字が定着しない。語彙力が少ない。助詞の使い方に課題がある児童が多い。	書くことに対する意欲も、書く能力も、個人差が大きい。既習漢字の定着にも個人差がある。ローマ字の読み書きが定着していない。語彙力が少ない。	漢字の書きが目標値に到達していない。授業でも漢字を読むことはできても、書けないことが目立つ。書くこと自体に面倒な思いをもつ児童が多い。	文章から問われている情報を抜き出したり、活用したりする力が目標値より下回っていた。
思考・判断・表現	主人公に寄り添いながら教材を読み進めたり、自分の意見を伝えようとしたりする姿が見られる。しかし、自分の考えを適切に表現したり、考えを順序よく相手に伝えたりすることはまだ難しい。個人差も大きい。	楽しんで読んでいるが、読解力が不十分な児童が一定数いる。また、漢字が苦手なため、読むことができない児童がいる。	説明文も物語文も、読み取る力が弱い。一文の理解が難しい児童もいる。段落のつながりを考えて読むことに課題がある。	説明文の要点に注意して読み取ることに課題がある。また、聞かれていることに対して、正対して答えることや、間違いを正して、文章や文を整えることが難しい。	書く能力が目標値を下回っている。自分の考えを言葉にすることや、筋道を立てて文章に表現することを苦手としている。	物語文の読み取りが目標値より下回っていた。説明文を読み取る力が弱く、文章の内容を的確に押さえることができていない。
主体的に学習に取り組む態度	既習漢字を積極的に使おうとする姿が見られる。その反面、大事なことを落とさずに粘り強く文章を読もうとすることに課題が残る。	積極的に人と関わったり、思いや考えをもったりして言葉を活用しようとしている。既習漢字が定着していない児童が一定数いる。	書くこと、読むこと等、意欲はあるが、定着度には大きな差がある。始め・中・終わりの構成を意識して書けるようになってきている。	学習課題に沿って、進んで文章や情報を読み、解決しようとする姿が見られる。自分の考えが相手により伝わるように書き表し方を工夫しようとしている。	学習課題に沿って、進んで文章を読もうとしている。一方で、課題の残る児童も一定数いる。読書の意欲も個人差がある。	学習のめあてに基づいて単元末に振り返りを行っている。書くことでは、より分かりやすい文章になるように推敲し、粘り強く書いている。

3 課題と授業の改善策

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
課題	○漢字や平仮名（長音・拗音・促音・撥音）を書く力を高める必要がある。 ○順序に沿って、正しく文章を書いたり話したりすることに課題がある。	○漢字や語句の定着を図る必要がある。 ○順序に沿って、正しい表記で文章を書く力を身に付ける必要がある。 ○文章中の大事な言葉に気を付けて正しく読み取る力に課題がある。	○場に応じた話し方、正確に聞き取る力を身に付ける必要がある。 ○学年相当の文章校正力を身に付ける必要がある。 ○段落ごとの内容を踏まえながら読むことに課題がある。	○資料がある文章から大事な部分を読み取る力をつける必要がある。 ○条件に合った作文を書くことに課題がある。 ○学年相当の漢字を書く力を身に付ける必要がある。 ○語彙力を向上させる必要がある。	○漢字の書き取りに課題がある。 ○文章全体の構成を考えて書くことに課題がある。 ○国語の学習に関心が高まらない。	○情報を抜き出したり、活用したりする力をつける必要がある。 ○説明文の内容の読み取りに課題がある。 ○表現を豊かにするために語彙力を向上させる必要がある。
授業の改善策	○MIMを活用し、拍を意識させることで長音、拗音、促音、撥音を理解させる。また、授業開始時等に簡単な読み書きの練習を行う。 ○段落の並べ替えなど、視覚的に文章構成が捉えられるようにする教材を用いる。	○漢字練習を継続的に行い、小テストは満点を目標とさせる。 ○プリント問題を定期的に行い、習熟を図る。 ○教科書以外の物語文や説明文を広く読ませて、読解力の向上を図る。	○朝のスピーチなどを活用し、話す・聞くの指導を強化する。 ○漢字テストをこまめに行う。国語辞典を使う。 ○作文をする機会を増やす。 ○構成を意識させる指導。	○資料型の問題に多く取り組む。また、それをもとにして自分の考えを書く力をつける。 ○漢字の小テストを定期的に行う。また、漢字の書き練習だけでなく、読み練習も行うことで、読み書き共に定着させる。	○授業終末や単元終末の言語活動で作文やそれに類する活動を多く取り入れ、文章を書くことに慣れさせる。 ○日ごろから読書やスピーチなどを通して言語活動を意識させ、関心をもたせる。	○資料から必要な情報を抜き出したり、活用できたりする問題に取り組む。 ○指示語や接続語のはたらきを理解し、文章理解につなげる。 ○漢字テスト、辞書を活用する。

社会科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・表やグラフについて考察する時間を設けたり、気付いたことや相違点などを共有したりすることで、グラフ等を読み取る力は定着してきた。活用の力も伸びてきた。
- ・学習したことや身に付けたい知識や内容は、フラッシュカードを用いて反復させることで定着を図った。一定の領域において定着が見られた。

(2) 課題

- ・地図と情報を結び付けるなど複数の資料を組み合わせる読み取ることや、重複して習熟化を図っていない領域については課題が見られた。

2 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	3年	4年	5年	6年
知識・技能	地図や資料の読み取りなどは苦手な児童が多い。繰り返し活用し触れさせ、慣れさせる必要がある。	写真の様子を読み取り、地図に示された情報と照合したり、地域の様子を読み取ったりする力が低かった。	学習効果測定の結果は、多くの領域において知識の定着はおおむね図られているが、地図に関する知識のみ正答率が低かった。	学習効果測定の結果は、活用項目は前年度比で、3ポイント近く上回った。全体は目標値から3ポイント低かった。グラフの読み取りについて定着が見られる。一方で、北方領土、太平洋ベルトの位置の理解が低かった。
思考・判断・表現	実際に見てきたことなどの事実は捉えることができるが、特徴や傾向をつかむことは難しい。また、資料を読み取ることは苦手である。	複数の資料を関連付けて考察したり、表現したりする力が弱い。また、知識をもとに考察することが難しい。	資料を読み取る課題を苦手としている。読み取れていることも表現力の不足により、うまく説明できないことも多い。	複数の資料を関連付けて考察したり、読み取った内容を記述で表現したりする力が弱い。
主体的に学習に取り組む態度	全体的に意欲をもって取り組む姿が見られる。特に調査活動に対して意欲的で、商店や消防施設、消防署等の見学では、よく調べ、記録することができた。	問題に対して意欲的に取り組んでいる。調べ学習は根拠を明確にして調べようとしている。一方で問われていることと資料の図を関連付けて解決することに課題を有している児童も複数名いる。	児童の社会的事象への関心は高く、意欲的に学習に取り組むことができている。得られた知識を生活の中で確認しようとする児童も増えている。	歴史に関しては意欲的で、自ら調べる児童も多々いる。一方で、覚える知識が多く、苦手意識をもつ児童もいる。複数の資料を関連付けて読み、社会的事象を自ら説明しようとする児童は増えている。

3 課題と授業の改善策

	3年	4年	5年	6年
課題	○事象や資料から、傾向や特徴をつかむ力を身に付ける必要がある。 ○等高線や地図上の方位など、地図の見方についての基本を身に付ける必要がある。	○社会的事象に関する知識を定着させる必要がある。資料の読み取りや、考察する練習をしていく必要がある。	○資料を正しく読み取り、そこから分かることや考察などを指摘したり記述したりする力をつける必要がある。 ○地図帳を活用する力を付ける必要がある。	○必要な資料を選択して正しく読み取る。また、資料から分かることや考察などを指摘したり記述したりする力をつける必要がある。 ○基本的な知識を確実に定着させる必要がある。
授業の改善策	○事象や資料を読み取る時の着眼点を与える。 ○事象や資料を複数用意し、比較作業を多く取り入れた授業展開を計画する。 ○用語や学習した記号等をフラッシュカードなどにまとめ、授業の導入や復習時に繰り返し行う。	○資料の読み取る力や活用する力を付けることができるような授業を展開する。また、地図に関する基本的な知識を身に付けさせる。	○資料やグラフなどを丁寧に読み取るとともに、分かったことやその原因などを考え、文章で表現させるようにする。 ○社会科に限らず、各教科においてスピーチや文章で自分の考えを表現する活動を取り入れる。	○地図、分布図など様々な種類の資料の見方を復習する。(領土、工業地域・地帯) ○教科書の「ことば」に出てくる言葉の意味を押さえ、確実な知識として定着させる。 ○授業だけでなく、知識の定着を図るためにも復習プリントなどを行う。

算数科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・児童の習熟度に応じた指導や、具体物を操作する活動を取り入れたため、算数科学習に親しみ、意欲的に取り組む児童の姿が見られた。
- ・具体物の操作や習熟度に応じたコース展開で指導をしたため、基本的な四則計算については概ね身に付いている。

(2) 課題

- ・基本的な四則計算は概ね身に付いているが、難易度が上がると苦手意識もあり意欲が低下してしまうため、反復して四則計算練習に取り組ませる必要がある。
- ・文章題において問題場면을把握し、図や式に表す活動を反復して取り入れることで、立式の根拠を明らかにして計算する力を養う必要がある。

2 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
知識・技能	ブロック操作に親しみ、具体物を使って正確に答えを出すことができる。	計算の仕方は理解している児童が多い。しかし、基本的な図形の概念や四則計算の意味の理解が苦手な児童がいる。	基本的な計算の仕方は身に付いているが、素早く正確に計算することが難しい児童が多い。	基本的な計算の仕方は身に付いているが、桁の大きなかけ算に課題がある。また、0を含む乗法、棒グラフの特徴を理解することができない児童が多い。	どの計算においてもけた数が増えると解く意欲が低下し、ミスも多くなる。特にわり算（商が小数）の正答率が低い。	基本的な計算の仕方は身に付いているが、小数のわり算（わり進む計算、余りを出す計算）、角柱の展開図を描くことが苦手な児童が多い。
思考・判断・表現	ものの数量に着目して具体物を操作することができる。操作の過程を説明することが難しい児童が多い。	文章問題から、四則計算のどれを使うのか理解できない児童がいる。また、工夫して計算をすることが苦手な児童が多い。	文章問題の演算決定や立式ができない児童が多い。適切な単位の選択ができない児童がいる。	文章問題の立式や小数のしくみ、重さ、三角形の性質に課題がある。問題文を正しく読み取れていないことが多い。	角の大きさの見当をつけることができない。また、グラフの数値を読み取ることはできるが、その数値が何を表すのかを説明する力は低い。	複合図形の体積を求める式から求め方を考察する、表のデータから割合を求めるような問題の正答率が低い。
主体的に学習に取り組む態度	意欲的に学習に取り組む児童が多い。算数で学んだことを生活と結びつけることがまだできない児童が多い。	ブロックや色板を使っての操作に親しむことのできる児童が多いが、その経験のよさに気付き、生活や学習に活用しようという態度をもつことができない児童が少ない。	意欲的に学習に取り組んでいる。大きい数の計算や文章問題は、苦手意識をもっている児童が多い。	計算問題に進んで取り組む児童が多い。大きい数の計算になると苦手と感じ、諦めてしまう傾向が強い。	公式などは理解していても応用・活用していくことに課題がある。	計算問題に進んで取り組む児童が多いが、文章問題の立式、2つの式から結果を考察する問題の正答率が低い。

3 課題と授業の改善策

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
課題	○生活の中に算数が使われている実感をもてていない。 ○ブロック操作が何を意味しているのかが、言葉で説明できない。	○文章問題から正しく立式する力が必要である。 ○計算を早く正確にできるようにする必要がある。 ○簡単な単位換算ができるようにする必要がある。	○文章問題の題意をとらえる力をつける必要がある。 ○計算力を伸ばす必要がある。 ○平易な単位換算や、適切な単位選択ができるようにする必要がある。	○文章問題を正しく読み取ることが苦手である。 ○0を含むかけ算やあまりのあるわり算、桁が大きい計算を正確にできる計算力を伸ばす必要がある。	○余りのあるわり算の正答率が低い。 ○分度器やコンパスを使った作図や、図形の性質の理解度が低い。 ○答えの見当をつける力が弱い。	○文章を読み取って立式する力、式から求め方を推測したり考察したりする力を付ける必要がある。 ○小数のわり算の計算の仕方を繰り返し取り組ませて定着させる必要がある。
授業の改善策	○生活の中での算数に目をつけられるように声掛けをする。 ○具体物を操作させる場面を多くし、問題場面の理解を深めさせる。 ○操作から説明できる型等を示す。	○問題場면을簡単に図に表す方法を考えさせる。 ○フラッシュカードや計算プリントの習熟をステップアップタイム等で行う。 ○具体物を操作させながら、量感を身に付けさせる。	○テープ図などをもとにして演算決定させる。 ○徐々に計算の桁数を増やすなど、週2回計算プリントに取り組む活動を取り入れる。 ○ノートに単位の一覧ページを作り、既習単位を追記したり、復習に使用したりする。	○文章問題に取り組む際、何が分かっているかを明確にし、既習事項を活用して問題に慣れさせる。 ○計算問題の後には、かけ算やわり算の桁を増やした活用問題や検算に取り組む時間を設ける。	○授業の最初の5分、わり算の練習を繰り返す。 ○図形の単元のときだけでなく、東京ベーシックドリルを活用して繰り返し練習する。 ○計算・文章問題に取り組む際、見当をつけさせる。	○小数のわり算（わり進む計算、余りを出す計算）、角柱の展開図を描かせることに繰り返し取り組ませる。 ○文章問題を解くだけでなく、様々な式からどのように求めたかを考察したり、話し合ったりする時間を大事にする。
	○文章題において、問われていることや答えの単位などを丁寧に確認して問題場면을正確に把握させる。また図や表を基に立式させることで、見通しをもって解決に取り組む力を養う。					

○図形・測定領域では、具体物の操作を低学年で多く取るようにし、身に付けた量感や知識をもって高学年の図形や測定領域につなげるようにする。

理科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・課題に沿って実験計画を立て、実際に器具を操作して結果を明らかにし、全体の交流を通して考察をした単元では、知識の定着が図れた。

(2) 課題

- ・「生命・地球」領域において、知識の定着に個人差が表れた。映像資料の活用や、より観察の意図を考えさせながら単元計画を立てていく必要がある。
- ・既習事項を基に実験計画を立てたり、実験の結果を基に考察したりする力を付ける必要がある。課題解決型の学習を繰り返すとともに、交流での価値付けや個人の振り返りを行う必要がある。

2 観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	3年	4年	5年	6年
知識・技能	実験器具の名前や扱い方に関しては、丁寧に正しく使用できる児童が多い。観察や実験の視点を理解し、定着している。	実験器具を正しく扱うことができる児童が多い。既習事項（特に、「生命・地球」領域）の定着率は低い。	「電気のはたらき」の単元が全国の正答率と比べても高い。楽しく実験を行った分野は身に付いていることがわかる。逆に生物や植物など少ししか授業で触れる機会がなかった分野の正答率は低い。	友達と協力しながら実験をすすめるなど、理科学習に意欲的な姿が多く見られる。「電流のはたらき」など実験を通して理解した知識は身に付いている。「生命・地球」の分野が定着していない児童が多い。
思考・判断	根拠のある予想を立てることが難しい。比較、予想、考察することが、苦手な児童が多い。観察・実験結果と考察の区別がまだついていない。	比較・条件・関連づけなどをして調べることや、結果から考察することが苦手な児童が多い。	実験結果や既習事項から考察して結論を導き出す力が弱く、苦手な児童が多い。	様々なことと関連させて考える「推論」が難しい実態がある。「植物の発芽と成長」では、対照実験の意味や目的が分からない児童が多い。
主体的に学ぶ態度	観察や実験などに興味をもち、積極的に学習に取り組む姿が見られる。特に、虫の観察など、積極的に取り組めた。実験は興味があるが、日常の事象に置き換えて考えることは苦手である。	実験は関心をもち、意欲的に取り組むことができている。しかし、生物に対する関心は個人差がある。	理科の授業が好きで楽しみにしている児童が多い。粘り強く学習取り組むことについては課題がある。	予想を確かめるために実験に必要な器具を考えたり、薬品を安全に使用したりして計画的に実験を実施できるようになってきている。

3 課題と授業の改善策

	3年	4年	5年	6年
課題	○観察・実験結果から考察や結論を導き出す思考力を高める必要がある。 ○実験器具などに関する基本的な技能を身に付ける必要がある。	○自然の事物・現象の性質や規則性、相互の関係などについて実感を伴った理解をしていない。 ○「生命」「地球」領域の既習事項が定着していない。	○植物や天気など「生命・地球」の分野に課題が見られる。 ○問題から結論まで最後まで意欲をもって探究することができる児童が少ない。	○5年生で身に付けるべき「条件制御」に関しての正答率が低い。 ○理科室で実験をよく行う単元に関しては、定着している内容が多いが、観察のみや、実験が少ない単元に関しては定着率が低い。
授業の改善策	○事象提示→問題→予想→観察・実験→結果→考察→結論の流れを意識した授業展開を行う。	○生物に触れる機会を設けたり、映像や写真を効果的に用いたりする。 ○実験から、性質、規則性、相互関係を理解させたい。そのために、予想⇒実験⇒結果⇒考察の流れを大切にして学習を進め、ドリルなどで知識の定着を確認する。	○校内の環境を整え、様々な植物に触れる機会を増やす。 ○問題作りの際に、探究したくなる問題を作るようにしたり、児童から出た意見を取り入れた問題作りをしたりと授業の工夫をする。	○「生命・地球」の分野の「人のたんじょう」や「川の水の流れ」などの実際授業内で体験できないものに関しては、映像を効果的に用いたり、繰り返しプリント学習などを行ったりする。 ○実験、観察後の考察の時間を十分に取って、結果をもとに自分の考えを整理し、問題に対して妥当な考えをつくりだすことができるような授業の工夫をする。

生活科 授業改善推進プラン

児童の実態

	1年	2年
知識・技能	探検、栽培などの体験活動を通して、身の周りには、様々な人や物があることに気付くことができた。	探検、栽培、飼育などの体験的活動を通して、様々な気付きの発言をする児童が多い。必要な道具を使って遊んだり、物を作ったりできる児童が多い。
思考力・判断力・表現力	校内には、様々な場所があることを知り、部屋にある物やいる人、部屋の目的など考えることができるようになってきた。 栽培活動を行う中で、成長の様子に関心をもったり、変化に気付いたりする姿が見られた。その反面、教師側の働きかけが無いと関心が薄れてしまう児童もいた。 水を使った遊びでは、力の加減で水の出方が変わることに基づき、工夫して遊ぶことができた。	1年生までに得た栽培、飼育の経験が身に付いており、必要なものなどを考えることができる。 気付いたことや感じたことについて、観察カードに絵や文章で表現する方法を理解している児童もいるが、課題がある児童もいる。 身近な対象と自分とのかかわりに関心をもち、気付いたこと、見つけたことを積極的に報告する児童が多い。
主体的に学習に取り組む態度	見つけた物・こと・人について、意欲的に話そうとする児童が多い。また、植物をじっくり観察し、丁寧にカードにまとめようとする児童も見られる。	おもちゃ作りでは、意欲をもって設計から組み立てまで考え、失敗しながらも試行錯誤を重ねて作成している児童が多い。

課題と授業の改善策

	1年	2年
課題	○身の回りの人たちとの交流経験が少ない分、視野の広がりには課題が残る。 ○気付いたことを描かせる際、見て分かることで終わってしまっていることがある。	○栽培や探検など体験的な活動が好きであるが、より主体的に取り組めるような工夫が必要である。 ○気付いたことや感じたことについて、絵や文章でより具体的に表現する力を育てていく必要がある。 ○校外での活動の経験が少ない。
授業の改善策	○人とかかわりをもたせることが難しい中ではあるが、他学年と連携をとり、自分たちの近い将来や目標とする姿に触れる機会をとる。 ○教師側の発問を精査するとともに、見たことから共通点や相違点を探させたり、更に疑問につなげたりと児童の思考が深くなるように意識する。	○自分たちの生活や地域にあるものを題材にすることで活動への意欲を高め、主体性を引き出す。児童の気付きや問題意識についてみんなで共有して話し合ったり、解決策を見つけたりする場を設ける。 ○数少ない校外学習で、児童の学びがより深くなるように、事前指導をしっかりと行い、児童の問題意識を高める。 ○体験活動での気付きを表現し、カードなどにまとめたり、友達同士読み合ったりする。そこで見つけたよりよい方法を全体で共有し、次の活動につなげていく。

音楽科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・音楽的表現を工夫するために、歌詞の意味を考えて歌ったり、提示した音楽の特徴に合わせて表現したりすることができるようになってきた。

(2) 課題

- ・音楽を形作る要素とその効果に気付いて鑑賞したり、演奏したりすることは十分にできていない。
- ・思いや意図をもっていても、音楽的表現につなげることは十分にできていない。

2 観点ごとの児童の実態

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
知識・技能	器楽（鍵盤ハーモニカ）については、2学期から、人数を制限するなどの対策を取りながら、少しずつ取り組んでいる。	音楽の特徴に合わせて、足踏みをしたり、リズムを打ったりしている。	歌詞をもとに、ようすを思い浮かべたり、考えたりしている。	曲の様子を思い浮かべながら、音楽の要素との関連付けを考えている。	音楽の仕組みに気付いて、表現に生かそうと考えている。	曲想と音楽の構造の関わりに気付き、表現に生かそうと考えている。
思考・判断・表現	音楽を聴き、曲や演奏の楽しさについて考えをもっている。	歌詞の内容からふりを考え、表現している。	音楽の特徴に気付き、ふさわしい表現を工夫している。	曲想に応じた歌い方や演奏の仕方の工夫を考えている。	歌詞の内容や曲の特徴を感じ取り、気持ちを込めて表現している。	歌詞の内容や曲の特徴を感じ取り、思いや意図をもっている。
主体的に学習に取り組む態度	様々な音楽を楽しんで聴いたり、様々な楽器の音色や演奏の仕方に興味をもったりして、楽しく音楽に関わっている。	楽しみながら意欲的に取り組んでいる。	楽しみながら意欲的に取り組んでいる。	声を揃えて丁寧に歌うことや、拍に乗りながら合奏をすることに取り組んでいる。	音の響きや重なりを意識しながら合唱や合奏ができるよう取り組んでいる。	響きのある歌声や、パートの役割を意識した合奏ができる。

3 課題と授業の改善策

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
課題	○音楽を聴いて、拍を感じ取ることができない児童がいる。 ○音楽を聴いて、感想をもつことができない児童がいる。	○思ったことや感じたことをうまく表現できずにいる児童がいる。	○楽しんで活動できる児童が多い。学習のルールを身に付けさせていきたい。	○互いの声を聴き合うことができなかつたり、地声で歌ったりする児童がいる。	○互いの声を聴き合いながら二部合唱することや、リズムを重ねて演奏することが苦手な児童がいる。	○思いや意図を表現に生かせない児童がいる。
授業の改善策	○友達と一緒にリズムを作りながら、楽しく拍を感じ取ることができるようにする。 ○感想を伝えるための言葉の例をいくつか提示し、そこから選んで表現することができるようにする。	○歌詞の内容から、ようすを思い浮かべたり、音楽の特徴を感じたりするなど、活動の内容を工夫していく。	○音楽を聴いて音楽の特徴を考えたり、音楽をつくったりするなど、活動の内容を工夫していく。	○簡単な二部合唱に触れ、異なる旋律が重なり合う面白さや、みんなで歌う楽しさを味わわせる。	○到達度別に手立てを用意し、個々に合った学習ができるようにする。声質や音程感覚の向上を高めるための題材を工夫する。	○グループ学習などを通して、発表の場を増やすことで、学び合う場を設定する。

図画工作科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・苦手な児童でも活動に興味をもてるように題材を工夫したことで、児童は意欲的に活動に取り組んでいた。
- ・のこぎりの使い方や彫刻刀の使い方などを丁寧に指導することで、道具の扱い方への理解が深まった。

(2) 課題

- ・自分の表したいもののイメージがもてない児童が多い。
- ・表したいイメージが曖昧なため、自分なりの工夫をしたり、細部までこだわりをもってつくったりすることが難しい児童が多い。

2 観点ごとの児童の実態

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
知識・技能	入学前までの経験に差があるため、はさみの操作や人間をかくといった作業にも差が出ている。	造形遊びを通して、活動を思いつくことのできる児童が多い。しかし、感覚を働かせて、創造的に作ったり表したりすることが苦手な児童がいる。	金づちなどの工具は初めて扱うという児童が多い。また、絵の具などにもまだ十分に慣れていない児童もいる。	のこぎりや彫刻刀などは初めて使う児童がほとんどある。表したいことに合わせて材料や用具を工夫して使おうとしている児童もいる。	表したいイメージが曖昧なため、自分なりに色や形を工夫できない児童もいる。	自分なりに考えて表し方や色や形を工夫することが難しい児童もいる。
思考・判断・表現	自分の発想で思いのままに取り組んでいる児童が多い。	自由に発想したり構想したりすることのできる児童が多い。しかし、表したいことを考えつけない児童が一部いる。	感じたことや材料を基に、自分なりに表したいことや、形や色を思いついて活動できる児童が多い。	感じたことや材料を基に、自分なりに表したいことや、形や色などを思いついて活動できている児童も多いが、手本の模倣に留まってしまう児童もいる。	感じたことや材料を基に、自分なりに表したいことや、形や色を思いついて活動できない児童もいる。自由度の高い題材だと手が止まってしまう児童もいる。	自分の表したいことを明確にもてない児童が多い。自由度の高い題材だと手が止まってしまう児童もいる。
主体的に学習に取り組む態度	つくりだす喜びを味わい、楽しく学習活動を行っている。	楽しく表現したり、友達の作品を鑑賞したりする活動に取り組むことのできる児童が多い。	絵や工作に表す活動に進んで取り組み、楽しんで活動している。	絵や工作に表す活動に進んで取り組む児童が多いが、粘り強く取り組むことが難しい児童もいる。	意欲的に活動に取り組んでいる児童が多いが、集中力が長く続かず、粘り強く活動に取り組めない児童もいる。	意欲的に活動に取り組む児童も多いが、集中力が長く続かず、粘り強く活動に取り組めない児童もいる。

3 課題と授業の改善策

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
課題	○物をかくときに、よく見てかけるようにする。 ○基本的なクレパスなどの色の塗り方、はさみなどの用具の使い方を身に付ける必要がある。	○想像することが苦手で、手本をそのまま真似しようとしていたり、手が止まってしまう児童がいる。 ○基本的な用具の使い方を身に付ける必要がある。	○新しい用具を使う場面が多いため、正しく用具を使えない児童もいる。 ○絵の具や粘土などにもまだ十分に慣れていない児童もいる。	○長い時間になると集中力が続かず、粘り強く活動することが難しい児童もいる。 ○新規に扱う材料や用具、既習の用具について扱い方を確認する必要がある。	○表したいことが思い浮かばなかったり、なかなか活動できなかったりする児童もいる。 ○長い時間集中力が続かなかったり、細部までこだわってつくれなかつたりする児童もいる。	○自分の表したいことが明確にもてない児童が多く、自由度の高い活動では手が止まってしまうがちである。 ○長い時間集中力が続かなかったり、細部までこだわってつくれなかつたりする児童もいる。
授業の改善策	○初めてかくときにはどんなパーツから成り立つものなのかを全員で確認してからかくように指導する。 ○はさみの使い方や色塗りの仕方などの指導を徹底して行う。 ○作業をするときの机上整理など、基本的なことを養わせる。	○あらかじめテーマを決めたり内容を設定したりして、想像や発想がしやすいようにする。 ○写真で掲示したり、一つ一つの作業を一緒に行ったりして、用具や材料の使い方を身に付けさせる。	○どの児童にも取り組みやすい題材を設定し、意欲的に取り組めるようにする。 ○用具の正しい扱い方や準備、片付けの仕方などの指導を徹底し、安全に正しく用具が扱えるように指導する。	○どの児童も取り組みやすいような題材を設定する。イメージスケッチを活用したり、スモールステップでの活動を意識したりする。 ○材料や用具の使い方を確認し、正しく安全に活動できるようにする。	○作品づくりの前に、アイデアスケッチや、色や形のイメージを広げるような活動を設定し、自分のイメージに合わせて表せるようにする。 ○苦手意識のある児童でも意欲的、主体的に取り組める題材を設定する。	○アイデアスケッチをしたり、イメージの広げ方、つくり方を確認したりするなどして、自分のイメージに合わせて色や形を扱えるようにする。 ○苦手意識のある児童でも意欲的に取り組みやすい題材を設定するとともに活動の見通しをもちやすいようにする。

家庭科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・製作が苦手な児童でも、製作の順序や細かい技術が理解しやすいように、掲示物・師範・書画カメラ・動画など、効果的に活用することができた。
- ・家族の一員であり、家族のために身に付ける大切な知識・技能であることを常に意識させたことにより、家庭で役立てようとする児童が増えた。

(2) 課題

- ・家庭の仕事をする時間や家族と触れ合う時間が少ない児童もいる。もっと保護者と連携して学んだことを生かす工夫が必要である。
- ・個人で製作するソーイングにおいても、共同で作業する調理においても、児童同士の「教え合い・助け合い」の力を更につけていきたい。

2 観点ごとの児童の実態

	5年	6年
知識・技能	衣食住などの生活に関する基礎的な技能を身に付けている児童は多いが、課題のある児童もいる。今年度は感染症対策のため、調理実習は行えていない。	衣食住などの生活に関する基礎的な技能を身に付けている児童が多い。しっかりと身に付け、手本となって活動する児童もいる。今年度は感染症対策のため、調理実習は行えていない。
思考・判断・表現	自分の生活を見直し、課題を見付け、家庭での役割に気付いて工夫しようとしている児童が多くみられる。	自分の生活を見直し、課題を見付けて解決に向け努力し、家庭での役割に気付いて工夫しようとしている児童が多くみられる。
主体的に学習に取り組む態度	衣食住の学習について興味・関心をもって活動に参加し、進んで実践しようとしている児童が多くみられる。また、楽しく活動ができている。	衣食住の学習について興味・関心をもって活動に参加し、進んで実践しようとしている児童が多くみられる。家での仕事も積極的に行っている児童がいる。

3 課題と授業の改善策

	5年	6年
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○調理や裁縫に対する意欲・興味・関心に個人差がある。 ○家庭科全般に意欲的に取り組む児童、調理に関しては意欲的だが裁縫に関しては意欲がもてない児童、全般に苦手意識を感じている児童など、興味や経験によって様々である。どの児童にも意欲をもたせられる工夫をし、「できた」という達成感をもたせる必要がある。 ○学習したことを、日常の家庭生活の中で活かすとともに、その活動の振り返りを行っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○調理や裁縫に対する意欲・興味・関心に個人差がある。 ○家庭科全般に意欲的に取り組む児童、調理に関しては意欲的だが裁縫に関しては意欲がもてない児童、全般に苦手意識を感じている児童など、興味や経験によって様々である。どの児童も意欲がもてるように工夫をし、「できた」という達成感をもたせる必要がある。 ○学習したことを日常の家庭生活の中で活用し、生活上の課題を解決したり、応用したりする力を付けていく必要がある。
授業の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○興味・関心を伸ばしていくために、題材の構成や内容を見直し、学習指導の工夫を重ねる。確かな技能を定着させるために、グループによる教え合いの活動を増やしていく。 ○見通しやプロセスが児童に分かりやすいように工夫し、資料、見本、補助教材を充実させる。ICT機器を活用する。ミシンの操作の学習においては、保護者による補助をお願いする。 ○学習内容を生活の状況や場面と関連付け、実態に応じた教材や基礎的技能を取り入れていく。 ○習得したことを家庭生活に生かせるように、振り返りながら学習させる。単元によっては家庭での課題に取り組みせ、どの児童にも家庭生活においての実践を経験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○興味・関心を伸ばしていくために、題材の構成や内容を見直し、学習指導の工夫を重ねる。 ○確かな技能を定着させるために、グループによる教え合いの活動を増やしていく。 ○見通しやプロセスが児童に分かりやすいように工夫し、資料、見本、補助教材を充実させる。ICT機器を活用する。 ○学習内容を生活の状況や場面と関連付け、実態に応じた教材を工夫する。5年生で学習した基礎的技能を活用して、応用した調理や裁縫ができるように指導の工夫を重ねていく。 ○習得したことを家庭生活に生かせるように、振り返りながら学習させる。長期休業中に課題に取り組みせ、どの児童にも家庭生活においての実践を経験・継続させる。

体育科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基礎体力を高めるために、準備運動や補助運動での指導の工夫があったため、例年通り体力テストを行うことができた。新型コロナウイルス感染防止対策の影響で大幅な制限の中、授業での指導の工夫により、児童の運動に対する意欲を高めることができた。

(2) 課題

- ・新型コロナウイルス感染防止対策の影響で、前期の時数が例年の2～3割減になってしまったため、持久力の低下や体力の個人差を改善することが難しかった。

2 児童の実態

1年	2年	3年	4年	5年	6年
運動を好む児童が多く、体育の学習を楽しみにしている。体力・運動経験に大きな差があるため、児童の差を考慮した教材が必要である。固定施設・用具を使った運動遊びを行う際は、細かく段階を踏む必要がある。	鬼ごっこなど体全体を使う遊びを好み、友達と仲良く体を動かすことができる。ボール・縄跳びを使う遊びなどは、技能の差が大きい。また、ボールゲームでは友達を意識した動きが苦手な児童が多く見られる。	鬼ごっこやボール遊びなどを好み、意欲的に活動する児童が多い。器械運動では技能に差があるものの、児童同士で教え合う姿が頻繁に見られる。整列や集団行動は、素早く行うことができない児童がいる。	運動に対する意欲は高く、休み時間にも外で遊ぶ児童が多い。体力面・技能面には大きな差があり、それぞれに合った課題や教材の工夫が必要である。また、整列・集合が遅く、一つ一つの活動を行うのに時間がかかる。	運動が好きな児童とそうでない児童が分かれている。休み時間も校庭に出る児童は決まっている。体力や技能の差が大きいので、チームで力を合わせ一つの目標に向かわせるための工夫が必要である。場の設定に時間がかかる。	体を動かすことが好きな児童と、読書など静かに過ごす児童に分かれる。そのため、体力面・技能面に差がある。陸上運動や器械運動など自己の体力に応じて行う運動に対して、グループの運動では、体力面・技能面で差が出てしまう。

3 課題と授業の改善策

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
課題	○運動経験の差が大きく、体力面や技能面での違いが顕著である。	○器械運動の技能に個人差が大きい。 ○ボール投げを苦手としている児童が多い。	○運動経験に大きな差がある。投力、器械運動にかかわる技能を伸ばすことが課題である。	○技能の低い児童の運動意欲を高める必要がある。	○運動に対する意欲を高めるとともに体力・技能を向上させる必要がある。 ○場の設定を素早く行うことに課題がある。	○投力・瞬発力を高める指導を行う必要がある。 ○運動に対する意欲、体力面・技能面の個人差が大きくなってきている。
授業の改善策	○固定遊具の利用を促し、物につかまったり、体を支えたりする運動経験を積ませる。 ○運動遊びを行う際、スモールステップを意識した授業展開にする。成功体験を積みませ、運動する楽しさや意欲を高められるようにする。	○授業内で多様な練習の場を用意する。児童が自分のやりたいこと、できるようになりたいことを支援する場を設ける。 ○ボール投げでは、遠くに投げることが苦手としているので、授業の中でソフトボール投げを取り入れるなど、取り組む時間を増やす。	○授業内の指示の内容や、タイミングを工夫して、運動時間を確保する。 ○体の使い方や動きの意味を理解させる。 ○準備運動にサーキットトレーニング的な要素を入れ、不足している力を高める時間を設定する。	○基礎体力を高める運動を学習の始めに行うようにする。 ○児童が自分のレベルに合った課題をもてるように、発問の工夫をしたり、教材に幅をもたせたり、技能ポイントを示したりする。 ○教材の魅力を児童に伝え、学習規律を守ることでより楽しく活動ができる経験を積ませる。	○運動に対する関心が低い児童も楽しく取り組めるような簡単な運動を、授業の導入で行う。 ○ペアやトリオでの教え合いを取り入れ、人の動きから技能向上の良い動きを学ぶ姿勢を身に付けさせる。 ○単元の初めにオリエンテーションを行い、流れや準備、片付けの仕方を確認し、主運動の時間が長くなるようにする。	○投力・瞬発力を高める運動を単元の初めに行うようにする。 ○グループの運動では、自己や仲間の考えたことを伝え合う場を作る。助け合い、協力して運動に取り組ませる。 ○自己の能力に応じて巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を取り入れる。